

令和3年度

事 業 報 告

(令和3年1月1日から12月31日まで)

公益社団法人競走馬育成協会

令和3年度 事業報告

公益社団法人競走馬育成協会

概況

令和3年度も令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年であったが、中央競馬は入場制限という環境下ではあったものの競馬開催を間断なく継続することができた。コントレイルの鮮やかなラストラン、ソダシというアイドルホース登場、ラヴズオンリーユーが世界を震撼させ、エフフォーリア号が有馬記念で世代交代を宣言するといったようにスターホースたちが多数活躍し、最終的な売得金は対前年比 103.6%、10年連続で増加という良好な成績を継続した。

令和3年度の2歳トレーニングセールについては、九州が上場頭数の不足により休止となったが、千葉はオンラインオークションで再開、北海道とJRA ブリーズアップセールは通常セリにオンラインビッドを加えたハイブリッド方式での開催となった

このような情勢の中、当協会においては、新型コロナウイルスの影響から年度当初に予定していた各施策について、実施と中止をぎりぎり判断する難しい一年となった。

育成技術講習会については、東北と九州での開催は少人数で催行できたものの、その他の開催は見送らざるを得なかった。これら開催できなかった講習会の代替として、生産育成技術に関する講習動画の協会ホームページへの掲載、および日本中央競馬会（以下「JRA」と表記）主催のオンラインセミナーへの参加取次ぎ等を実施した。

就業者参入促進事業（BOKUJOB）では、コロナ渦以前に実施してきた対面型イベントについて、上半期に予定していた見学会やフェア等は取り止めざるを得なかったが、感染防止を徹底し参加人員を縮小したうえで「夏休み牧場で働こう体験会」を再開し、「研修コース体験入学会」は継続できた。一方で令和2年度から新たに実施した「Web相談会」を通年で実施したのに加え、その拡大版として短期集中型の「Webフェア」を開催した。

競走馬育成技術表彰では、会員育成馬の勝利数との該当率が年々高水準を維持しており、会員牧場の育成技術の確かさが示されているが、競馬場での表彰式については全ての競走で実施できなかった。

その他にも、修学奨励金交付、競馬関連機材の有効活用、利子補給、情報誌発行等の広範囲の事業を展開した。

1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

1) 育成技術講習会の開催（公益事業）

例年、軽種馬の生産、育成、調教に関する知識習得と技術向上を目的とし、当協会の5地区にてJRA及び公益財団法人軽種馬育成調教センター（以下「BTC」と表記）との連携・共催による講習会を開催し、会員のみならず一般からの参加も得ている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全ての講習会の開催を見合わせた。令和

3年度についても一部の地区での開催を見合わせる事となった。東北や九州地区での講習会は、参加者数が少人数であるために感染拡大のリスクが低く、感染防止に十分配慮することで安全を確保できるとの判断から開催が実現したが、その他3地区においてはこの限りではなかった。これら開催を中止した地区の講習会については、代替として協会ホームページへの生産育成技術に関する講習動画の掲載、およびJRA主催のオンラインセミナーへの参加取次ぎ等を実施した。

2) 競走馬育成調教技術表彰事業（共益事業）

競走馬の育成調教の技術向上を図り、育成調教者の基盤強化及び意欲増進を図るため、優秀な競走成績を収めた競走馬の育成調教者に対する表彰を実施した。

表彰対象 557 競走のうち 353 競走において会員の育成馬が優勝し、これらについての表彰を実施した。該当競走の中では、特に2歳新馬競走の該当率は81.3%、2歳重賞・リステッド競走は95.0%の高水準維持しており、対象競走全体でも会員の該当率は63.4%の高水準であった。このような結果は各会員の努力の成果であり、当協会会員育成牧場を経由することで新馬戦や重賞競走での勝率が高まるものと言い替えることもできる。

	表彰対象 競走数	前年比	会員優勝馬 表彰該当数	前年比	該当率	前年比
3歳新馬競走	45	-11	34	-10	75.6%	-3.0P
2歳新馬競走	252	+5	205	+14	81.3%	+4.0P
2歳重賞 ・リステッド競走	20	±0	19	+3	95.0%	+15.0P
3歳以上重賞 ・リステッド競走	177	±0	75	+5	42.4%	+2.8P
障害重賞競走	10	±0	0	±0	0.0%	±0.0P
上記以外の 平地オープン競走 (2・3歳限定を除く)	53	+11	20	+9	37.7%	+11.5P
計	557	+5	353	+21	63.4%	+3.2P

また、例年、競馬施行場で育成協会会長賞表彰を実施している重賞2歳ステークス競走6競走（札幌・函館・新潟・小倉・京王杯・デイリー杯）では、その全てで当協会会員の育成馬が優勝し、2歳重賞競走における会員の高い表彰該当率を裏付けた。しかし、令和3年度も前年度に続いて、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から競馬場での表彰式を実施できなかった。

2. 軽種馬の育成調教に関する調査及び研究（公益事業）

軽種馬の育成調教技術の向上と牧場環境の改善を図るため、新入会の牧場について実態、人材、施設等に関する調査を実施しデータを蓄積した。一方、過去に実施した牧場経営等に関する調査報告については、引き続き当協会ホームページに掲載して情報発信している。

3. 軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援（公益事業）

1) 生産育成調教牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材の確保を目的とし、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することによって就業者の参入を促進するため、当協会を中心に JRA・BTC・公益社団法人日本軽種馬協会（以下「JBBA」と表記）・一般社団法人日本競走馬協会の 5 団体で牧場就業促進事務局（BOKUJOB 事務局）を構成して各種事業を展開している。

令和 3 年度も前年度に引き続き、上半期の対面型イベントである「BOKUJOB メインフェア」「BOKUJOB 関西フェア」「牧場見学会」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見合わせた。一方で、感染防止を徹底し参加人員を縮小したうえで「夏休み牧場で働こう体験会」を再開し、「研修コース体験入学会」は継続できた。

また、令和 2 年度から新たに実施した「Web 相談会」を通年で実施したのに加え、その拡大版として短期集中型の Web フェアを開催した。

① 牧場就業促進ウェブサイトの運営と保守管理

BOKUJOB のウェブサイトは、平成 22 年にオープンし、令和元年 11 月に全面的にリニューアルした。コロナ渦で訪問者は増加、リニューアルの際にスマートフォンからのアプローチを重視したため、令和 3 年度も訪問者数のうち 75%以上がスマートフォン利用者となっている。

	延べ訪問者数	新規訪問者数	新規訪問者数 スマホ利用者内数	スマホ利用率
令和 3 年	274,561	186,256	140,402	75.4%
令和 2 年	203,603	136,393	107,416	78.8%
令和元年	138,613	84,618	64,592	76.3%
平成 30 年	115,610	69,355	50,279	72.5%
平成 29 年	133,912	81,357	54,151	66.6%
平成 28 年	148,923	88,473	54,641	61.8%
平成 27 年	160,488	87,994	51,302	58.3%
平成 26 年	157,194	54,585	28,722	52.6%

※ 平成 30 年は 1~10 月の旧サイトと 11~12 月の新サイトの合計

② サポートデスク

令和3年度は、JRA 関連施設でのサポートデスクを実施できなかったが、インターハイ馬術競技会場（静岡県）や日本学校農業クラブ全国大会（兵庫県）の会場にブースを開設し、BOKUJOB 活動の認知度向上のための広報や牧場業務に関する相談等を行った。

	開催日	来場者			
		令和3年	令和2年	令和元年	平成30年
御殿場インターハイ馬術会場	7月19～21日	45		52	45
日本学校農業クラブ全国大会	10月26～27日	176		8	10

※ 令和2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施せず。

③ 夏休み牧場で働こう体験会

全国公募で参加者を募り夏休み期間を利用して、牧場での就業体験・体験乗馬・BTC 研修体験学習・JBBA 研修見学・スタリオン見学等のカリキュラムを5泊6日で実施した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、止むを得ず実施を見合わせたが、令和3年度については、体験牧場数と参加者数を限定し、参加者全員に事前のPCR検査を実施して陰性を確認、牧場での宿泊を取り止めて最寄りのホテルから牧場へ毎日通う形をとるという万全の感染防止対策を施して実施した。

- ・ 8月1日～8月6日 参加者12名
- ・ 体験受入牧場 杵臼牧場、谷口牧場浦河育成センター、笹島智則牧場、岡田牧場目名共同トレーニングセンター

④ 夏休み研修コース体験入学会

競走馬の牧場で働くことに興味がある者を全国公募して7月から9月の期間に実施した。令和3年度は前年度と同様2泊3日の日程で、1回の参加人数を10名に限定して、時期の異なる2回に分け募集したが、応募者が多数であったことから、抽選に漏れた者を対象に急遽1泊2日の臨時日程を追加し計3回実施した。

研修見学・体験乗馬・厩舎作業に加えて、教官や研修生との交流、双方の施設や限定した関連施設の見学等をまとめて実施することで、BTCとJBBAの技術者養成研修への受験者獲得にもつながるような内容とした。研修機関と参加者の双方からはたいへん好評であった。

- ・ A日程 7月28日～30日
- ・ B日程 8月25日～27日
- ・ 臨時日程 9月8日～9日

⑤ Web相談会、Webフェア

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面式の相談会の実施が困難なため、

ビデオ会議ツール（Zoom）を使った個別面談形式の相談会を通年で実施した。

また、メインフェア・関西フェアの実施を取りやめた代替企画として、Web 相談会の拡大イベント「Web フェア」を企画し開催した。

(1) Web 相談会

令和 2 年度の後半から実施してきたビデオ会議ツール（Zoom）を使った個別面談形式の相談会を、個々の都合に合わせてられるようにいつでも通年で実施できるようにした。また、各牧場に対して Web 上における操作や就業促進方法等をレクチャーすることも継続して実施した。

(2) Web フェア

Web 相談会をメインフェア・関西フェアのようにイベントとして集中的に広報展開することで、多数の面談を集約して実施できるよう「Web フェア」を企画し開催した。また、参加牧場の一部（11 牧場）および BOKUJOB 関連 5 団体の「職場・活動紹介」「求人・募集アピール」「Web 講演会」等の動画をウェビナーとして「BOKUJOB Youtube チャンネル」にて生配信するとともに、アーカイブとして牧場就業を目指す者のための情報資源として活用した。

- ・ 日時：① 6 月 12 日（土）・13 日（日） 9:00～17:00
② 6 月 19 日（土）・20 日（日） 9:00～17:00
- ・ 場所：① 関東サテライト 競走馬育成協会（新橋）及び参加牧場（自宅）
② 北海道サテライト 静内エクリップスホテル（新ひだか町）及び参加牧場（自宅）
- ・ 方式：ビデオ会議ツール（Zoom）による個別面談（1 面談約 30 分）
- ・ 就業相談希望参加者数：27 名（延べ 139 面談）
- ・ 参加牧場数：24 牧場、4 団体（研修機関等）

2) 担い手育成事業

例年、生産育成調教の牧場で働く意欲ある人々に必要な馬に関する知識と技術を習得させ、牧場就労担い手としての能力を開発し向上させるため、研修機関への修学や海外研修への派遣を援助しているが、令和 3 年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外研修への派遣については実施を見合わせた。

① 修学奨励金交付事業

BTC が実施する育成調教技術者養成研修の令和 3 年度入講生 5 名、JBBA が実施する生産育成技術者研修の令和 3 年度入講生 1 名、及び公益社団法人日本装蹄協会の実施する令和 3 年度装蹄師認定講習会入講生 1 名の計 7 名に対して、修学奨励金を交付した。その後、BTC 入講生の 1 名については途中退所となったため、修学奨励金の返還を受けた。

② 生産育成技術者海外派遣

例年、生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした海外研修や牧場従業員等による長期研修及び短期研修を対象に海外研修への派遣援助をしてきたが、令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、全ての海外派遣研修の実施を見合わせた。

4. 軽種馬の育成調教に係わる競争力の向上に対する支援（公益事業）

1) セリ市場の振興

若馬育成調教の成果がセリ市場取引に反映されるように、2歳トレーニングセールへの地域団体による後援等を実施した。

2) 育成調教施設等の整備に対する助成事業

① 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設の整備等を目的に会員が借り受けた資金の利子負担軽減を図るため、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から軽種馬生産育成強化資金を受け、令和3年度は新規案件3件について利子補給を開始するとともに、継続案件11件についても利子補給を実施した。

② 競馬関連機材等有効活用事業

JRAの施設等で使用を取りやめた競馬関連の機器・資材などを有効に活用するため、令和3年度は1回の抽選会を実施し、ウニモグ2台、トラック2台、トラクター1台、散布車4台、散水車2台、乗用車5台、ハロー類5台、馬場柵類1セット、発馬機2台、その他1台の合計25件について募集と斡旋を行った。

③ 畜産近代化リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会の行う畜産リース事業について、令和3年度は会員からの新規案件の申請はなかった。

5. 軽種馬の育成調教に係わる国際交流（公益事業）

例年、競馬先進国との情報交換を進めるとともに、国内や近隣諸国に対して軽種馬の育成調教技術の指導、普及等を通じて国際交流を推進するため、海外派遣研修等を実施しているが、令和3年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、海外派遣研修を止むを得ず取り止めた。また例年、情報交換のため関係団体で構成されJBBAで主催していた連絡協議会が書面による開催に形を変え海外流通促進事業検討会として開催され当協会からも参加した。

6. 軽種馬の育成調教に関する情報発信（公益事業）

軽種馬の飼養管理及び育成調教技術の普及並びに改善向上に役立つ情報を提供するため、令和3年度も機関誌「いくせい」の59号（10月1日付）を発刊した。

また、協会ホームページ等を利用して、育成調教に係わる情報を広く一般の皆様にも閲覧可能な形で発信した。

7. 協会の運営、組織、その他必要な監査等

1) 総会の開催（定時総会）

2月12日 14:00～ 新橋分館 4階会議室

Web総会（書面及び通信等を利用して総会の開催要件を満たしたハイブリッド総会）

議案：令和2年度事業報告及び財務諸表について

令和3年度会費等の額及び徴収の方法について

理事および監事の選任について

2) 理事会の開催

① 第1回理事会（定例）（書面決議）

1月15日 提案書の発出

1月25日 決議があったとみなされた日

議案：令和2年度事業報告及び財務諸表について

令和3年度定時総会の開催について（日程、場所、提出議案）

令和3年度総会における議決権行使書及び委任状について

令和3年度業務委託費の配分方法について

公益社団法人競走馬育成協会職員就業規則の一部改正について

② 第2回理事会（臨時）

2月12日 提案書の発出

2月19日 決議があったとみなされた日

議案：会長及び副会長の選任について

公益社団法人競走馬育成協会組織規程の一部改正について

③ 第3回理事会（定例）

12月10日 14:00～ 新橋分館 4階会議室

議案：令和4年度事業計画及び収支予算について

④ 臨時書面理事会（定款第41条）

1月26日 入会の承認 1件

2月2日 入会の承認 1件

5月12日 入会の承認 1件

8月27日 入会の承認 1件

11月11日 入会の承認 1件

12月23日 入会の承認 1件

3) JRA との育成等に関する懇談会

10月1日 13:30～ JRA 本部（虎ノ門）4階 408会議室

懇談内容：セリ市場の動向について

育成牧場における人材確保と養成（BOKUJOB）について

育成等を取り巻く情勢について

その他

4) 協会の組織

① 会員数の動向

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
令和2年12月31日	83	10	47	29	18	187	8
増加	1	1	3	1		6	0
減少		2	1			3	0
令和3年12月31日	84	9	49	30	18	190	8

② 役員の動向

令和3年度は役員改選の結果、以下のとおりとなった。

会長理事	栗田晴夫	非常勤	
副会長理事	佐藤光信	常勤	常務理事兼務
副会長理事	飯田正剛	非常勤	
理事	荻野豊	非常勤	
理事	高橋司	非常勤	
理事	沖崎誠一郎	非常勤	
理事	中内田克二	非常勤	
理事	柏木務	非常勤	
理事	宮島成郎	非常勤	
理事	織田信美	非常勤	
監事	五島崇	非常勤	

③ 職員等の動向

令和2年12月31日	退任・転出	就任・転入	令和3年12月31日
3名	2名	3名	4名